

# 夜明け

キリストの御臨在の使徒



# ドーン誌

2025年2月

## 目次

夜明けのハイライト.....	2
死者のためにバプテスマを受けることの輝かしい結果 .....	2
国際聖書研究.....	22
正しい祈り .....	22
洗礼者ヨハネ.....	26
金持ちの青年.....	30
羊とヤギのたとえ話.....	34

*聖書の引用箇所を調べてください！*

## 死者のためにバプテスマを受けることの輝かしい結果

**"アダムに属する者は皆死ぬように、キリストに属する者は皆、新しい命を与えられる"**  
第1コリント15:22

全人類が死んでいるか死にかけていることを否定する人はほとんどいないだろう。パウロは冒頭の節で、これは最初の間人アダムから始まったと説明している。これはアダムが神の掟に背いたためである。(創世記2:16-17、3:17-

19)。基本的に、コリントの信徒への手紙第一の15章全体は、死者は復活によって完全に生き返る機会が与えられるという保証を提示している。

パウロはその理由をこう説明している：「死が一人の人（アダム）によってこの世に生じたように、死者の中からの復活は、もう一人の人（キリスト・イエス）によって始まったのです。(キリスト・イエ

ス）」（21節）。ここで私たちは、この世を死から贖ったのはキリスト・イエスという人であったことを思い起こす。これは、イエス自身が自分の肉を「世のいのちのために与える私の肉。」と言ったときの言葉（ ）と一致している。ヨハネ6:51

使徒は「身代金」という言葉を使って、人間を死の責め苦から回復させる神の計画のこの特徴を表現した。救い主である神は、すべての人が救われ、真理を理解することを望んでおられます。なぜなら、キリスト・イエスというお方を通して、神と人類を和解させることのできる唯一の神と唯一の仲介者がおられるからです。イエスは、すべての人の自由を購うために、その命を捧げられたのです」。1テモテ2:3-6

新約聖書で「身代金」と訳されているギリシャ語は、「対応する代価」、「贖いの代価」を意味する。聖書が「聖なる者、無害な者、汚れのない者、罪人から離れた者」であると宣言しているキリスト・イエスは、神のかたちに創造された完全な人アダムと対応していた（ヘブル7:26、創世記1:26-27）。（ヘブル7:26、創世記1:26-27）。アダムは神の掟に背くことによって、自分自

身とその子孫全体に死をもたらした。完全な人であるイエスは、犠牲の死によって自らを捧げ、そうすることによって、それに対応する代価となった。その犠牲は、アダムと、それゆえにアダムから子孫を残すすべての人たち、すなわち

人類の贖いをもたらした。パウロが表現したように、この「すべての人のための身代金」によって、すべての人がいのちに戻る道が開かれたのである。

パウロは別の場所でこう書いている：「罪の報酬は死ですが、神の無償の賜物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。(ローマ6:23)

。ヨハネの福音書3:16-

17にも同じようなことが書かれている：「神は、このように世を愛されたのです。神は、そのひとり子をお与えになりました。それは、神を信じる者がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るためです。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世を救うためです。"

イエスはさらにこう説明された。しかし、彼を信じない者はだれでも、神のひとり子を信じなかったという理由で、すでに裁かれている。"（ヨハネ3：18

）。(ヨハネ3:18)。これらの文章は、遺伝によって全世界が死の宣告を受けていること、そしてこの宣告からの解放と完全な生命への回復の機会がキリストを通して与えられていることを明らかにしている。しかし、この回復は、この愛に満ちた備えがなされた個人の信仰と受け入れにかかっている。

今の時代、この神の恵みを知り、従順と神のみこころを行うための完全な献身を条件としてそれを受け入れる者は、「義とされ」、神の目において義とされると言われている。ですから、私たちは信仰によって神の目に義とされたのであり、私たちの主イエス・キリストが私たちのためにしてくださったことのゆえに、神との間に平和があるのです」(ローマ5:1)。(ローマ5:1)。イエスの足跡をたどることによって神のみこころを行うために人生を完全に捧げることによって支えられた完全な信仰をもってキリストのもとに来ていない人々は、現時点ではこの"神との平和"を享受していない。これらの人々は、罪によってまだ神から疎外されており、死の宣告を受けているのだ。

死から救われる道は、キリストによる以外にない。ペテロはイエスについてこう言った！神は、私たちが救われるべき名を、天の下にほかにお与えになったことはありません」。(使徒4:12)。イエス以外には死からの救いがないのは、イエスが罪の呪いを受け、死に瀕した民族に代わって、完全な人間の血を流された唯一の方だからである。聖書において流された血とは、注がれた命の象徴であり、イエスはアダムとそのすべての子孫が生きる機会を得るために、「死に至るまで魂を注がれた」のである。イザヤ書53章12節

キリストの流された血の規定を信仰によって受け入れ、神の御心に身を捧げるとき、そこには単に信じる以上のものがあることに気づく。あなたがたには、キリストを信じる特権だけでなく、キリストのために苦しむ特権も与えられているのです」(ピリピ1:29)。(ピリピ1:29)。イエスとともに苦しむことがクリスチヤンの特権であることを示す聖句は多い。テモテへの手紙の中で、パウロはこう書いている：もし彼とともに死ぬなら、私たちも彼とともに生きるでしょう。私たちが苦難に耐えるなら、彼とともに治めることができます。もし私たちが彼を否

定するなら、彼は私たちを否定するでしょう。"2テ  
モテ2:11-12

## 死者のために

適切なことに、パウロは死者の復活についての議論に関連して、すべての信徒に対する神の御心のこの側面に言及している。コリントの教会には、イエスの復活を信じていない人々がいたようだ。キリストが死者の中からよみがえらなかったのであれば、死者がよみがえる望みはないと彼は指摘する。それどころか、イエスが死者の中からよみがえられただけでなく、イエスによってすべての人が死者の中からよみがえり、完全ないのちに回復される機会（）が与えられることを示している。第1コリント15:12-22

使徒は、これがキリストの支配によって成し遂げられること、そしてすべての敵がキリストの足の下に置かれるまでキリストが支配することを明確に示している。死そのものさえも滅ぼされる。その栄光の業が完了したとき、キリストの王国は父なる神に引き渡され、キリストは

"あらゆる所において、すべてのものを完全に支配する"のである。第一コリント15:24-28

これにパウロは次の言葉を付け加える：「どうして私たち自身が、刻一刻と命を危険にさらす必要があるのでしょうか。親愛なる兄弟姉妹よ、私は毎日死に直面していることを誓います。それは、私たちの主キリスト・イエスがあなたがたのうちに成してくださったことに対する私の誇りと同じくらい確かなことなのです」。もし死者の中から復活することがないのなら、野獣、すなわちエペソの人々と戦うことに何の価値があろうか。もし復活がないのなら、ごちそうを食べ、酒を飲みましょう。

ここで私たちは、キリストを信じる真の信者たち、つまり現在実際にキリストの足跡をたどっている者たちは、キリストとともに苦しみ、死ぬのだということをおぼろげに思い起こす。パウロは、これは人類の"死んだ"世界を代表してのことであり、イエスに従う者たちの苦しみと死から、何らかの形で死者が恩恵を受けることを示している、と説明する。これは実に、人類世界に生命を与えるという神の壮大な設計の重要な特徴の一つである。このこと

は、聖書の中でさまざまな形で私たちの注意を喚起している。そのひとつが、神がアブラハムに約束された、彼の子孫によって地上のすべての家族が祝福されるという約束である。創世記12:3; 22:18

パウロは、この約束されたアブラハムの胤とはイエスであると特定し、こう付け加える。「バプテスマによってキリストと結ばれた者はみな、キリストを身につけたのです。アブラハムに対する神の約束は、あなたがたのものなのです」。(ガラテヤ3:16-27-29)。ここには、キリストにバプテスマを受け、忠実である者は、地上のすべての家族を祝福するという約束をキリストとともに受け継ぐことが明らかにされている。祝福されるべき "地上の家族

"は、死んでいるか、死につつあるかのどちらかであるから、イエス・キリストにバプテスマを受ける者は、象徴的に言えば、"死者のためにバプテスマを受けた

"と考えるのが論理的である。このバプテスマによって、彼らは将来、地上のすべての家族を祝福するという偉大な働きにふさわしいことを証明し、その準備をするのである。

**バプテスマはさらにこう説明した。**

聖書の中でクリスチャンに認められている水への浸礼は、真のバプテスマの象徴や絵にすぎない。パウロは言う：「私たちが洗礼によってキリスト・イエスと結ばれたとき、キリスト・イエスの死に結ばれたことを忘れたのですか。...私たちは、キリストの死においてキリストと結ばれたのですから、キリストと同じようによみがえらされるのです。”ローマ6:3,5

イエスの死の「類似性」とは何だったのか？使徒はさらに説明する：「ですから、あなたがたも、自分自身が罪の力に対して死んでいると考えるべきです。(10-

11節)。イエスは決して罪人ではなかった。だから、あなたがたも、罪の力に対して死んだと思いなさい」(10-

11節)。イエスの「罪に対する」死は、罪の呪いを受けた人類の世界を代表しての犠牲の死であった。私たちがバプテスマによって彼とともに死に植え付けられるのも、同様に犠牲の死である。パウロはこう書いている。「神があなたがたのためにしてくださったすべてのことのゆえに、あなたがたのからだを神にささげなさい。あなたがたは、神があなたが

たのためにしてくださったすべてのことのゆえに、自分のからだを神に捧げるよう懇願する。これこそ、神を礼拝する方法なのです」。ローマ12:1

犠牲の死へのバプテスマについて、イエスは言われた。"しかし、私には受けるべきバプテスマがある。(ルカ 12:50)。ここで "完了した"と訳されているギリシア語には、束縛されている、あるいは夢中になっているという意味がある。主がこのように言われたのは、彼が逮捕され、死刑に処せられるであろう宣教の終わりの時期のことである。したがって、主のバプテスマは、文字通りの意味で、"死に至るバプテスマ"であった。

弟子の二人が、御国において、一人は右の手、もう一人は左の手に座ることを求めたとき、イエスは彼らに言われた：「あなたがたは、自分が何を求めているのかわかっていない」とイエスは言われた。あなたがたは、わたしが飲む杯を飲むことができるか、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか」--マルコ10:35-38。

この二人の弟子たちは、イエスが言及した経験を自分たちも経験できると言ったので、イエスは言われ

た。"あなたがたは、私が飲む杯を飲み、私が受けるバプテスマを受けなさい"。(39節)。バプテスマとは「葬る」という意味であり、これらの様々な文章で言及されているのは、私たちの意志が神の意志の中に葬られることである。イエスが世の罪のために犠牲となって死ぬことは神のみこころであり、それゆえ、主人の意志が天の父の意志の中に葬られることは、死へのバプテスマを意味するのである。同じように、イエスの弟子たちが、死へと向かう師に従い、師のバプテスマを受けることも神のみこころであり、それは死へのバプテスマであるとパウロは説明している。

イエスの犠牲の死は、アダムの種族に下された死の宣告を取り消すものであった。しかし、罪の宣告から解放された世界は、キリストの犠牲の御業について啓蒙される必要がある。これに加えて、アダムによって失われた完全性を回復するために、人類は精神的、道徳的な墮落から引き上げられ、罪のすべての後遺症から清められる必要がある。イエスの死に似せて共に植えられたイエスの忠実な信者たちは、この啓蒙と回復の業に参加するのである。

## 世界和解

和解とは、2つ以上の当事者が互いの好意を回復できるように、相違、矛盾、対立を解決するプロセスであると定義できる。パウロは、人類と神との和解についてこう書いている：「このすべては、キリストによって私たちをご自身のもとに連れ戻してくださった神からの賜物です。そして、神は私たちに、人々を神と和解させるという仕事を与えてくださったのです。神はキリストにあって、世をご自分と和解させ、もはや人々の罪を。そして、和解というすばらしいメッセージを私たちに与えてくださったのです」。第2コリント5:18-20

この一節からわかるように、犠牲を払う主人の従者たちは、「このすばらしい和解のメッセージ」に主人とともに参加している。この仕事は、失われた種族に対する救いの計画の偉大な創造者である神に由来する。その計画はイエスによって実行に移された：「神はキリストにおいて世をご自分と和解させられた」。そして、キリストに従う私たちは、キリストが用意された和解の業におけるキリストの代理人

として登場する。私たちは  
"を与えられている。

"和解の言葉

21節にはこうある：「神は、罪を犯したことのないキリストを、私たちの罪のための供え物とされました。(第2コリント5:21)。罪の呪いを受け、滅びゆく民族の一員である私たちが、和解の業において神に用いられる根拠がここに示されている。それは、まず第一に、キリストが私たちの和解のための備えをしてくださったからであり、この備え（  
）を受け入れることによって、私たちは  
"キリストによって神と正しい者とされる  
"のである。私たちは、和解のための血の価値には何も加えないが、その血の力によって私たちの和解が実現し、神は私たちを義と認め、キリストとともに他者のための和解の業に参加する特権を与えてくださるのである。

パウロは6章1節でこう続ける：「私たちは、神の恵みは無駄に受けないように勧めます。使徒が私たちに、神の恵みは無駄に受けないようにと勧めている神の恵みは、なんと驚くべきものであろうか！彼とともに働く者であるというこの特権は、神の救いの

計画における二つの時代、すなわち現在の福音、すなわちキリスト教の時代と、来るべきメシアの時代を包含する働きである。キリストは弟子たちに、全世界に行って、和解の言葉によって福音（ギリシャ語では良いメッセージ）を宣べ伝えるように命じられた。（マタイ24:14、使徒1:8）。この働きには犠牲が必要であり、主に仕えるために命を捨てる必要がある。私たちがキリストとともに死へのバプテスマを受け、キリストとともに苦しみ、死んでいくのはこのためである。

そして、これまで見てきたように、キリストのからだのメンバーがすべて集められ準備されたとき、近づいてくるメシア時代の仕事は、残りの人類を和解させ、いのちに回復させることである。パウロはこう書いている。"

、わたしの好意の時に、わたしはあなたがたを聞き、救いの日に、あなたがたを助けた。"第二コリント6:2

この「救いの日に」という表現は、個人の生涯に適用されるのではなく、天の父がご自分の民の犠牲を受け入れ、ご自分とともに働く者としてご自分の計画の中で役割を与える神の計画の期間、すなわち現

在の福音時代に適用されるのである。このテキストで、パウロはイザヤ書49章8-

9節の一部を引用している。救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを守り、わたしの契約として人々に与える。あなたを通して、わたしはイスラエルの地を再興し、それを再び自分の民に割り当てる。私は囚人たちに『自由に出てきなさい』と言い、暗闇の中にいる者たちには『光の中に出てきなさい』と言う。彼らは私の羊となり、緑の牧草地で、以前は裸だった丘で草を食むようになる」。

## 天と地の救い

今の時代、信仰によって、キリストを通して神から与えられた命の糧にあずかる者は、死に至るまで忠実であるならば、栄光と誉れと不死へと昇華される。(ローマ2:7)。彼らは、ヘブル3:1では

"天に召された者たち

"として語られている。第2ペテロ1:4では、神の性質である「神の性質」にあずかる者となるための約束が与えられていると描写されている。ローマ人への手紙5章2節では、これらの人々は

"神の栄光を分かち合うことを待ち望む  
"ことを喜ぶ者として描かれている。

神性は不死であるだけでなく、生命の源でもある。  
だからこそ、上に引用したイザヤ書49:8-  
9のように、キリストとともに死の洗礼を受け、す  
べての試練を通して神に守られている人々は、囚人  
に向かって「出て行け」と言い、暗闇の中にいる人  
々に向かって「姿を現せ」と言うのである。この  
"囚人

"とは、キリストとその忠実な従者たちを通して、  
アダムの死への束縛から解き放たれる、死者も生者  
も含めた人類の残りの大部分である。しかし、これ  
らの人々は、教会のように神の性質に引き上げられ  
るのではなく、"荒れ果てた遺産を受け継ぐ  
"ために引き上げられるのである。

これは地上の命の遺産であり、アダムに与えられた  
が、アダムが罪によって失った地上の支配権である  
。この地上生活の遺産は、キリストの血によって買  
い取られたものであり、教会はキリストとともに、  
この遺産を、  
、その千年の祝福の王国の掟に従うすべての人に回  
復する。その間に、真のクリスチャンが現在バプテ

スマを受けている死者たちは悟りを得て、人間生活の完成に戻る機会が与えられるのである。

私たちの愛に満ちた永遠の神が、今終わろうとしていると私たちが信じるこの「救いの日」全体を通して、犠牲を捧げる民を常に助け続けてくださったことを、私たちはどれほど感謝しているだろうか！私たちは、キリストの血の功德によって、天の父がご自分の民の犠牲を受け入れてくださり、神性への究極的な昇華を期待して、ご自分への忠実さを試すことを可能にしてくださることを喜んでいる。

これまで見てきたように、死のバプテスマが行われている間にも、主は彼らを偉大な救いの計画の協力者として用いてこられた。彼らは和解と回復のメッセージを全人類に伝え、やがて主の知識が

"水が海を覆うように

"地を満たすようになるからである。イザヤ11:9;

ハバクク2:14

キリストの使者として、和解のことばを用いる教会を通して、イエスによって与えられた「すべての人のための身代金」の知識は、やがて「証し」され、すべての人に知らされるのである。1テモテ2:3-6

## 花嫁

象徴的な言葉として、聖書は忠実な教会全体、つまり現在の福音時代にイエスの死に似せて共に植えられたすべての人々を、キリストの「花嫁」として語っている。黙示録19:7では、イエスは贖いの犠牲的性質から「小羊」として言及されている。私たちはこう読む：「小羊の婚礼が来て、その妻は身支度を整えたからである。

栄光のうちにイエスと結ばれ、メシヤ時代に人類の回復をイエスと共にする者たちの、現時点での「準備」は、多くの犠牲と苦しみを伴うものだった。イエスご自身の宣教は、主に犠牲によるものであり、それは死によって終わった。聖書は、イエスのようになること、象徴的に言えば、バプテスマによってイエスとともに死に葬られることを私たちに促している。

花嫁となる者の装飾は、他者のために犠牲を払う無私の愛であることに加え、神の御心を行う謙遜と従順の装飾でもある。それは実際、聖霊のすべての実と恵みの豊かな組み合わせである。(ガラテヤ5:22-

## 23、2ペテロ1:5-

7) 。キリストの未来の花嫁候補の一人一人が、こうして「夫のために美しく着飾り」、全体が「第一の復活」のときに初めて、小羊とその花嫁の結婚が行われるのである。黙示録21:2; 20:6

黙示録22:17が成就するのはその時である。本文にはこうある：「御霊と花嫁は "来なさい" と言う。これを聞く者はだれでも "来なさい" と言いなさい。渴いている者はだれでも来なさい。望む者はだれでも、いのちの水を自由に飲みなさい。"御子キリスト・イエスを通して現れる神の聖なる力と影響力である "御霊" と、忠実な教会である "花嫁" が、人類が "いのちの水" にあずかるよう招かれる手段を構成すると、私たちは知らされている。このように、イエスの死に似せて共に植えられた者たちが、救いの計画の中で占める独特な位置が再び明らかにされるのである。

パウロが、死者の復活がないのであれば、キリスト教の苦しみと死がいかにも無益なものであるか、死者のためのバプテスマがいかにも無意味なものであるかを指摘するのも無理はない！しかし、「初穂」であ

るキリストがすでに死者の中からよみがえられ、天の栄光に昇華されたのだから、死者の復活があることを私たちは知っている。(第1コリント15:23)。最初の復活」は、キリストとともに生き、キリストとともに治めるために、キリストとともに苦しみ、死んだすべての人を包含するが、この栄光の希望は、「死に至るまで」忠実であることによつてのみ実現することができる。黙示録2:10

私たちは、犠牲のために命を捧げる人々に対する神の助けが保証されていることを喜ぶ。忠実であることの最大の動機の一つは、私たちが現在「死者のためにバプテスマを受けている」ことが、神のご計画における次の時代に、死者の究極的な益となるという聖書の約束である。もし忠実であれば、私たちは死んだ世界を生き返らせ、啓蒙し、神と和解させ、永遠に生きる機会を与えるという偉大な未来の業を共有することになる。神の御言葉には、なんと輝かしい結果が約束されていることだろう！

## 正しい祈り

キー・ヴァース「こう祈りなさい：天にいます私たちの父よ、あなたの御名が聖なるものとされま  
すように。」

マタイによる福音書6章9節

厳選された聖典

マタイ6:5-15

イエスが「ある場所で祈り」終えられた後、弟子が「主よ、私たちに祈りを教えてください」と尋ねた。(ルカ11:1-

4)。この弟子がこの質問をしたとき、それまで祈ったことがなかったと考えるべきではない。しかし、弟子たちは、イエスの教えが律法学者やファリサイ派の教えとさまざまな点でかなり異なっているだけでなく、祈りの仕方も異なっていることに気づいていたようだ。それゆえ、弟子たちはイエスの祈りに関する教えを得たいと願ったのである。

祈りに関するイエスの教えは、ルカとマタイの福音書に記されている。(ルカ11:1-13、マタイ6:5-15)。私たちは、  
、イエスが祈るときに自分の言葉をそのまま繰り返せということではなく、むしろ "こう祈りなさい"と言われたのだと理解しなければならない。言い換えれば、イエスは私たちに正確な言葉を与えたのではなく、私たちの祈りのスタイルと内容の一般的な例を示したのである。ですから、どの祈りでも同じ形式的な言葉を繰り返したり、長い祈りを捧げることで聞いている人に感銘を与えたり、天の父により受け入れられやすくなると考えたりすることは避けるべきです。マタイ6:7

"天におられる私たちの父"(9節)。私たちの父"という表現は、ユダヤ人にとっては新鮮なものであったろう。(エズラ5:11、"ニーハオミーヤ"1:6)。しかし新約聖書では、使徒はイエスを受け入れたユダヤ人について、「彼らに神の子となる力(ギリシャ語では特権)を与えた。(ヨハネ1:12)。 「あなたの御名が聖なるものとされますように」とは、神のいつくしみと偉大さに対する敬虔な崇敬と感謝を表している。祈りにおける私たちの最初の

思いは、神に向けられるべきであり、私たち自身や私たちにとって大切な人に向けられるべきではありません。

"御国が早く来ますように。"(マタイ6:10)。神の御国は、全人類を祝福し、現世のあらゆる問題、悩み、悪を解決する永遠の解決策になると約束されている。この王国への希望は、すべての人が祝福される時が来るという展望を思い描きながら、今日の試練や困難を乗り越える助けとなるだろう。

"御心が天にありますように、地にもなされますように"。私たちは、神がその多くの約束のすべてを果たしてくださるという信頼を表明すべきである。"今日、私たちに必要な食物をお与えください。"(11節)。私たちは、霊的なことに関しても、一時的なことに関しても、日常生活における神の摂理的な配慮と指示を受け入れ、神に絶えず依存していることを認めるべきです。

「私たちに罪を犯した者を私たちが赦したように、私たちの罪を赦してください。(12節)。私たちはしばしば神の完全な基準に達しないことがあるので

、祈りの中で神の憐れみと憐れみを必要としていることを表明し、救い主の功德による赦しを求め、変わりたいという願いを表明すべきなのです。私たちはまた、天の父に、私たちに対して罪を犯すかもしれない他の人たちに対する憐れみを育むことができるように助けてくださるようお願いしなければなりません。マタイ5:44

"私たちを誘惑に屈せず、悪から救い出してください。"(マタイ6:13)。私たちが耐えることができないような試練が私たちの上に来ることがないように、神が私たちの人生の歩みを導いてくださるように、また、私たちの成長のために神が許してくださる試練から私たちが学ぶことができるように、神に願い求めるべきである。(1コリント10:13; ローマ8:28)。このように、神に喜ばれるためにイエスが私たちに与えてくださった祈りの作法は、私たちが心から神のみこころを行ないたいという願いを神に表すことである。エペソ6:6

## 洗礼者ヨハネ

キー・ヴァース「本当のことを言いますが、今まで生きてきたすべての人の中で、バプテスマのヨハネより偉大な人はいません。しかし、天の御国で最も小さい者でさえ、彼よりも偉大なのです！」  
マタイによる福音書11章11節

厳選された聖典  
マタイ11:7-15

マラキもイザヤも、神が主の道を前もって "備える" 個人を選ばれると預言している (マラキ3:1、イザヤ40-5、マタイ10章)。(マラキ3:1、イザヤ40:3-5、マタイ11:10)。この特別な大使がバプテスマのヨハネであった。主の使いは、ヨハネの父に、彼の妻は高齢であったが、男の子を産むので、その子をヨハネと名づけるようにと告げた。天使はヨハネについて、"彼は多くのイスラエル人を彼らの神である主に帰らせるであろう・・・彼は主の来臨のために民を準備させるであろう"と告げた。ルカ1:5-17

イエスは30歳になると、"人々が罪を悔い改めたことを示すためにバプテスマを受けるように"と説いていたヨハネのもとに来た。ヨハネはイエスを見ると、"世の罪を取り除く神の小羊を見よ"と宣言した。それからイエスはヨハネにバプテスマを授けるように言われた。イエスが水から上がると、「ヨハネはこう証言した：わたしは、御霊が鳩となって天から下って来て、イエスの上にとどまるのを見た。ルカ3:2-23; ヨハネ1:19-34

その後、ヨハネが牢獄に入れられたとき、イエスは群衆に向かって、キー・ヴァースの言葉を宣言された：「女から生まれた者のうちで、バプテスマのヨハネより偉大な者はひとりも出ていない。マタイによる福音書11章11節

天の王国」という表現は、キリストの地上での宣教と死の時に発展し始めた、メシア王国の霊的段階を指している。これは、天の父に仕えるために生涯を捧げる人々に神の聖霊が注がれたペンテコステの時に続いた。(使徒2:1-41、ローマ12:1、ヘブル3:1)。この天からの召し

は、福音時代を通して、現在に至るまで続いている。

聖書がイエスに与えている称号の一つは "花婿" である。イエスの忠実な従者たちは、集団としてイエスの "花嫁" となる。(黙示録19:7; 22:17)。バプテスマのヨハネはこう説明した。"花嫁を持つ者は花婿であるが、立って花婿の声を聞く花婿の友は、花婿の声のために大いに喜ぶ。(ヨハネ3:29)。ヨハネの宣教は、終わろうとしていたユダヤの時代に属していた。しかし、イエスが "天の御国

"への招きを開かれる前に死んだので、ヨハネは "花婿の友" であることは喜んだが、"花嫁" 階級の一員とはみなされなかった。

バプテスマのヨハネは、「アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてすべての預言者たち」とともに、その忠実さに報いられ、完全な人間として地上に復活する。彼らは「全地の君主」となり、王国の地上段階において、全人類の指導者、模範となる。ルカ13:28、詩篇45:16、ヘブル11:4-40

イエスが「天の御国で最も小さい者は、彼よりも偉大である」と述べたとき、バプテスマのヨハネや、キリストの地上での宣教以前に生きた、聖書に言及されているすべての正しい人物（  
）が、福音の教会よりも信仰が薄かったと推論してはならない。そうではなく、神は彼らを地上の完全な人間として復活させる一方、キリストの花嫁を完全な霊的存在として復活させ、不死と神性を与えると約束された、ということなのだ。2ペテロ1:4、ローマ2:7、6:3-5、2テモテ2:11-12

## 金持ちの青年

キー・ヴァース「繰り返しますが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方が易しいのです」。

マタイによる福音書19章24節

厳選された聖典

マタイ19:16-30

大きな財産を持つ若者がイエスのもとに来て、ひざまずき、尋ねた：「永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいのでしょうか。(マルコ10:17、マタイ19:20、ルカ18:18)。短い話し合いの後、イエスは言われた。"完全な者になりたければ、行って、自分の持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。これを聞いた若者は、"大きな富を持っていたので、悲しんで立ち去った"。マタイ19:21-22、マルコ10:21-22

そこでイエスは弟子たちに言われた：「金持ちが天の御国に入るのは難しい。そして、キー・ヴァースにある言葉を付け加えた：「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方が易しい。弟子たちは大いに驚いて、「では、だれが救われるのか？」と尋ねた。イエスは答えられた：「人には不可能であるが、神には万事が可能である。」  
イエスは答えられた。マタイ19:23-26

以前、イエスはこう諭された：「あなたがたは、自分の宝を地上に蓄えてはならない。(マタイ6:19-21)。また、種まきのたとえの中で、イエスは、いばらの中に落ちた種が芽を出し、種を窒息させるのは、神の言葉を聞く者を表していると説明された。  
マタイ13:22

しかし、金持ちになりたがる人は誘惑に陥り、多くの愚かで有害な欲望に捕らわれて、破滅と破滅に陥る」と使徒パウロは戒めている。金銭を愛することは、あらゆる悪の根源だからです。また、金銭を切望するあまり、まことの信仰から離れ、多くの悲しみに身をさらしている人々もいます。"1テモテ6:9-10

しかし、お金持ちの人は、自分の心を完全に主にゆだね、真剣に神を追い求めれば、大きな謙遜と服従をもって天の召しに応え、天の父に喜ばれる人格を身につけることができる。聖書には、まさにそうであった何人かの人物が記録されている。ザアカイは公

衆の長であったが、「イエスを見ようとした」。(ルカ19:2-9)。金持ち

"と描写されているアリマタヤのヨセフは、イエスの死体をピラトに懇願し、"自分の新しい墓に安置した。(マタイ27:57-

60)。ニコデモはヨセフに加わり、イエスの遺体に塗るために非常に多くの香料を持ってきた。ヨハネ19:39-42

しかし、豊かでありながら、天の父に完全に服従した人の最も偉大な例は、イエスである。"彼は富んでいたが"、神のすべての被造物の最初で最高であったが、貧しい被造物のうめき声のために、"彼は貧しくなり"、"

天から下ってきた"。彼は進んで完全な人となり、"すべての人のための身代金となり、やがてあかしを

受ける "ために命を捧げた。2コリント8:9;  
ヨハネ3:13; 6:38-51; 1テモテ2:5-6

## 羊とヤギのたとえ話

キー・ヴァース「しかし、人の子が栄光を帯びて来て、御使いたちも皆一緒に来ると、栄光の御座に着かれる。羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼は民を分ける。」

マタイ25:31-32

厳選された聖典

マタイ25:31-46

このたとえは、メシヤ王国の地上段階での働きがいつ、どのように起こるかを示している。たとえ話はこう始まる："人の子が栄光を帯びて来るとき"。人の子」とは、私たちの主イエスのことである。(マタイ16:13、ヨハネ5:26-

27)。人の子とともに、"すべての聖なる天使たちが" "彼とともに" "いる。これがキリストの完成した花嫁である。黙示録14:1-4

このたとえ話の時間枠は、この言葉によって特定される：「そのとき、彼は栄光の座に着く。復活した主が忠実なクリスチャンに与えた約束のひとつに、「わたしもまた打ち勝ち、父の御座に着いているように、打ち勝つ者には、わたしの御座にわたしと共に座ることを与えよう」（黙示録3:21）がある。（黙示録3:21）。この聖句には2つの重要な記述がある。第一に、現在の福音時代に忠実に打ち勝った者すべてに約束された報いは、王国の間、人類を指導し、高揚させる目的で、「王たち、祭司たち」として、彼とともに統治する特権である。（黙示録1:5-6; 20:4-

6）。第二に、このメッセージがヨハネに与えられたとき、イエスは父の王座に「着いて」おられたが、ご自身の王座にはまだ着いておられなかった。

したがって、このたとえは、キリストが  
"栄光の御座に座る

"未来の時を指し示している。これは、"すべての聖なる天使たち

"がキリストとともにいるとき、つまり、キリストの花嫁全体が完成したときに起こる。以前、イエスはこの時について弟子たちにこう言われた：「わた

しの父がわたしにお定めになったように、わたしもあなたがたに王国をお定めになる。ルカ22:29-30

このたとえ話の中で、"glory "という単語は、"glory, as very apparent "という意味のギリシャ語から訳されている。使徒パウロは、キリストが "明白な "栄光を受けるとき、それは死に至るまで忠実であった主のすべての従者たちとともにあることを、さらに証明している。私たちのいのちであるキリストが現れる（ギリシャ語では明白になる）とき、あなたがたもキリストとともに栄光のうちに現れるのです。（コロサイ3:4）。この "glory "という単語は、マタイ25:31で "glory "と訳されているのと同じギリシャ語から来ている。

キリストの王国の統治の間、"彼の前にすべての国々が集められる"。すべての人々がキリストの権威を知るようになる。そして王国の終わりには、「羊飼いが羊と山羊とを分けるように、キリストは彼らを分けられる」（マタイ25:32）。（マタイ25:32）。この分け隔てとは、王国の裁きの期間中に、各個

人が「その行いによって」最終的に試され、評価されることを表している。使徒17:31

羊のような者たちは、神の愛、他者を助け、励ますという性質を、王国の間に発展させ、自発的に現したので、王国を受け継ぐことになる。ヤギのような階級の人々は、王国の間、このような性質を何一つ示さず、ただその祝福を自分のためだけに享受する。彼らは永遠に生きることを許されない。黙示録20:12-15